

令和4年度 小田原市立 病院指標

[医療法における病院等の広告規制について（厚生労働省）](#)

- [1. 年齢階級別退院患者数](#)
- [2. 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）](#)
- [3. 初発の5大癌のUICC病期分類並びに再発患者数](#)
- [4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等](#)
- [5. 脳梗塞の患者数等](#)
- [6. 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）](#)
- [7. その他（D I C、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）](#)

年齢階級別退院患者数

[ファイルをダウンロード](#)

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	1336	365	307	377	615	873	1188	2441	2301	634

≪定義≫

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを年齢別に集計し表示しています。

≪解説≫

当院は県西地域の基幹病院として急性期医療や救急医療において中核的な役割を担い、幅広い年齢層の患者さんを診療しています。県内二次保健医療圏において、県西は高齢化の進んだ地域（小田原市は全人口の65歳以上の比率が30%の超高齢化地域）であり、退院患者数のうち60歳以上の患者さんが60%以上を占めています。また、当院は地域周産期母子医療センターの認定施設であり0～9歳の幼児・乳幼児の診療も多く、退院患者数の10%以上を占めています。前年度と比較し、ほぼ全ての年代で増加傾向にあります。

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

[ファイルをダウンロード](#)

■ 腎臓内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用バ ス
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	22	3.86	7.59	0.00	71.95	
110280xx991xxx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等1 あり	18	3.94	6.45	0.00	48.44	
110280xx9901xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 1あり	15	10.13	13.82	0.00	73.67	
110280xx02x1xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等手術・処置等2 1あり	14	39.64	33.82	7.14	79.21	
110260xx99x0xx	ネフローゼ症候群 手術なし 手術・処置等2 なし	12	9.42	20.06	0.00	68.50	

≪定義≫

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

≪解説≫

慢性腎臓病の患者さんが多く、上位を占めています。軽度の慢性腎臓病から末期腎不全まで、腎疾患全般に対応しています。血液透析または腹膜透析いずれの導入も可能で、血液透析導入後は、維持透析施設へ紹介します。シャント閉塞等に対し、経皮的血管拡張術、血栓除去術の実施が可能です。

■ 糖尿病内分泌内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用バ ス
10007xxxxxx1xx	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除	61	14.51	14.28	1.64	67.90	

	く。) 手術・処置等 2 1あり						
100040xxxxx00x	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	21	16.38	13.43	0.00	53.52	
10006xxxxxx1xx	1型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。） 手術・処置等 2 1あり	-	-	13.16	-	-	
100210xxxxxxx	低血糖症	-	-	7.17	-	-	
0400801499x013	肺炎等（市中肺炎かつ75歳以上） 手術なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病あり A-DROP スコア3	-	-	19.91	-	-	

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

《解説》

糖尿病疾患が上位を占めています。有病率が10人に1人とされている2型糖尿病治療が主となっていますが、1型糖尿病治療や妊娠合併症例の治療も行っています。また、低血糖やケトアシドーシスなど糖尿病による合併症の症例も治療しています。

■呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用バ ス
040040xx99200x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 2あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	63	3.33	3.05	0.00	71.83	
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等 2 なし	61	20.85	18.57	6.56	74.10	
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	33	13.18	13.49	9.09	78.88	
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等 2 なし	19	22.95	21.11	26.32	86.05	
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4あり 定義副傷病なし	16	11.50	8.60	0.00	72.31	

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

《解説》

肺がんが多く上位を占めています。肺がんに関しては、PET/CTを用いた病期診断が可能であり、呼吸器外科との連携も密接で手術も実施しています。主な治療は、化学療法、放射線治療を施行しています。

■消化器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用バ ス
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	91	10.59	8.94	3.30	78.81	
060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	53	4.74	2.64	0.00	67.68	
060280xxxxxxxx	アルコール性肝障害	38	14.45	13.34	5.26	57.61	
060140xx97x0xx	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの） その他の手術あり 手術・処置等 2 なし	34	11.06	10.88	14.71	75.15	
06007xxx97x0xx	膵臓、脾臓の腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし	23	8.61	11.74	0.00	74.52	

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し

上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

「解説」

上下部消化管疾患及び胆道系結石、胆管炎、膵炎等に対する内視鏡治療を積極的に行っております。ほぼ全ての消化器全領域の疾患、消化管出血や急性膵炎、胆管・胆嚢炎などの救急疾患にも迅速に対応できる体制を整えています。

■ 循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パス
050050xx9913xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等 1 1あり 手術・処置等 2 3あり	181	8.39	6.33	1.66	71.77	
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等 1 なし、1,2あり 手術・処置等 2 なし	92	5.64	4.26	0.00	71.35	
050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等 1 なし、1,3あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	83	15.34	9.89	2.41	79.07	
050130xx9900x0	心不全 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 他の病院・診療所の病棟からの転院以外	58	20.53	17.54	10.34	84.21	
050070xx01x0xx	頻脈性不整脈 経皮的カテーテル心筋焼灼術 手術・処置等 2 なし	45	8.82	4.65	2.22	65.42	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

「解説」

狭心症が上位を占めています。虚血性心疾患に対しては緊急心臓カテーテル検査を行い、経皮的冠動脈拡張術、ステント留置術による血行再建を積極的に行っています。また、高齢化に伴い心不全の患者さまが増えており、併発疾病に多く、急性期治療後は病状が安定して際には、療養型病院やリハビリテーション病院へ転院し治療を行っていただくこともあります。当院は救急専門医が常駐しており、連携をとりながら24時間体制で対応しています。

■ 小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パス
140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害 (2500g以上) 手術なし 手術・処置等 2 なし	165	6.59	6.13	2.42	0.00	
080270xxxx1xxx	食物アレルギー 手術・処置等 1 あり	134	1.01	2.09	0.00	4.82	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	100	5.89	6.05	0.00	3.79	
040090xxxxxxxx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症 (その他)	83	4.92	5.89	0.00	2.08	
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等 2 なし	82	3.11	5.70	0.00	3.98	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

「解説」

県西二次医療圏唯一の三次救急医療機関として、救急センターを開設し高度急性期医療を担っています。各専門診療科と連携し、迅速で円滑な診療体制を構築しています。心肺停止や急性冠症候群、急性脳卒中などの救急疾患の対応、多発外傷や急性薬物中毒などの特殊な疾患の入院治療を中心に行っています。

転倒転落などによる外傷性の頭蓋・頭蓋内損傷は小児・高齢者に多く最上位となっています。高齢者に多い誤嚥性肺炎、尿路感染症が上位に入っています。

■ 外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パス
--------	-------	-----	--------------------	--------------------	-----	------	-----------

060160xx001xxxx	鼠径ヘルニア（15歳以上） ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	108	5.59	4.59	0.00	70.61	
060330xx02xxxx	胆嚢疾患（胆嚢結石など） 腹腔鏡下胆嚢 摘出術等	62	6.40	6.07	0.00	62.92	
060035xx010x0x	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍 結腸切 除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術 等 手術・処置等 1 なし 定義副傷病 なし	48	20.75	15.40	2.08	74.42	
060150xx03xxxx	虫垂炎 虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わ ないもの等	30	5.97	5.32	0.00	32.87	
060050xx02xxxx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。） 肝切除術 部分切除等	23	14.83	14.50	0.00	71.78	

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

《解説》

地域がん診療連携拠点病院に認定されており、日本外科学会・日本消化器外科学会・日本大腸肛門病学会の認定施設も取得しています。日本肝胆膵外科学会においてはA認定を受けており、高難度の手術が行うことができます。県西地区の基幹病院として、幅広い疾患に対応できるよう体制を整えています。結腸がんの症例が上位に入っています。がんの進行度に応じた手術療法、抗がん剤治療も含めた手術後のケアを行い、がん治療における集学的治療を積極的に行っています。また、鼠径ヘルニアや胆のう結石症も多く上位に入っています。

■ 整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入 術 肩、股等	245	27.59	26.42	59.18	82.25	
160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷 を含む。） 手術なし	49	20.98	20.09	46.94	79.39	
07040xxx01xxxx	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含 む。） 人工関節再置換術等	36	25.33	20.14	5.56	70.72	
160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 定義副傷病 なし	33	5.88	4.86	0.00	53.45	
070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む。） 人工関節 再置換術等	32	25.50	22.44	9.38	77.25	

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

《解説》

日本整形外科学会の認定研修施設となっています。救急科と連携し、重症多発外傷、脊椎外傷等を取り扱っているため、各部位の骨折など、外傷の患者さんが多くなっています。特に、股関節大腿近位骨折が最も多く、次に胸・腰部の骨折が多くなっています。また、変形関節症や脊柱管狭窄症、高齢化に伴って増加する運動器不安定症など慢性疾患に対しても様々な治療を行っています。

■ 形成外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等 2 なし	21	4.38	2.90	0.00	76.24	
080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等 1 なし	-	-	13.50	-	-	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) 等 手術・処置等 1 なし	-	-	3.94	-	-	
050170xx9720xx	閉塞性動脈疾患 その他の手術あり 手術・ 処置等 1 2あり 手術・処置等 2 なし	-	-	37.07	-	-	
160200xx02000x	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。） 鼻 骨骨折整復固定術等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	-	-	4.72	-	-	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

「解説」

眼瞼下垂が最上位となっています。眼瞼下垂は外来で手術を行うこともありますが、抗血栓薬を内服されており術後の出血が懸念される場合や、遠方にお住まいの方などの場合には1泊2日の入院をお勧めすることがあります。

■脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用バ ス
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満）手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	22	15.73	19.58	36.36	66.59	
010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	21	19.19	11.85	23.81	80.62	
010060x2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4あり 定義副傷病 なし 発症前Rankin Scale 0、1又は2	20	16.90	15.97	30.00	71.90	
010070xx9910xx	脳血管障害 手術なし 手術・処置等 1 あり 手術・処置等 2 なし	18	3.56	3.23	0.00	64.56	
010010xx9900xx	脳腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	14	11.79	11.11	35.71	67.64	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

「解説」

主に脳血管疾患、頭蓋内腫瘍、頭部外傷、水頭症などの機能的疾患に対して、顕微鏡やカテーテル、神経内視鏡などのさまざまな機器を駆使した外科治療を行っています。特に、急性主幹動脈閉塞症をはじめとする急性期脳梗塞に対しては、t-PA静注療法やカテーテルを用いた再開通治療に積極的に取り組んでいます。2022年度より新体制となり、患者さん一人ひとりに寄り添いながら安全で高度な医療を提供できるよう、スタッフ全員が一丸となって24時間365日体制で診療に臨んでいます。

■呼吸器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用バ ス
040040xx97x00x	肺の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	20	6.90	10.06	0.00	70.50	
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	10	14.00	9.68	0.00	35.10	
040200xx99x00x	気胸 手術なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	-	-	9.24	-	-	
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 4あり 定義副傷病 なし	-	-	8.60	-	-	
040040xx99200x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 2あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	-	-	3.05	-	-	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

「解説」

呼吸器内科・呼吸器外科ともに肺がんが多くみられます。呼吸器外科では、手術療法を主とした肺がんの治療を行っています。10～30代

のやせ形の男性に好発すると言われている気胸も多く上位に入っています。自然気胸・小型肺がん・転移性肺腫瘍・良性縦隔腫瘍などは、小さな手術創による胸腔鏡下手術を取り入れ、手術侵襲を軽減し早期社会復帰を目指しています。

■ 皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パス
080020xxxxxxx	带状疱疹	18	8.44	9.25	0.00	71.06	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 なし	16	4.06	7.29	0.00	76.94	
080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等 1 なし	14	13.64	13.50	0.00	58.07	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等 1 なし	13	3.69	3.94	0.00	61.31	
050170xx97001x	閉塞性動脈疾患 その他の手術あり 手術・処置等 1 なし、1あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 あり	-	-	26.66	-	-	

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

《解説》

带状疱疹の患者さんが多く、最上位となっています。高齢で合併症のある方の带状疱疹は重症化しやすく、神経痛が残りやすいため入院治療を行っています。皮膚腫瘍症例も多く、高齢化社会に伴い増加傾向にあります。

■ 泌尿器科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パス
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり	211	3.42	2.45	0.00	72.59	
110070xx03x20x	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 2 2あり 定義副傷病なし	84	8.51	6.66	0.00	75.00	
11012xxx02xx0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術 定義副傷病なし	53	5.58	5.29	1.89	61.60	
11012xxx97xx0x	上部尿路疾患 その他の手術あり 定義副傷病なし	34	5.68	7.20	8.82	72.41	
110080xx01xxxx	前立腺の悪性腫瘍 前立腺悪性腫瘍手術等	27	11.33	11.30	0.00	72.74	

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

《解説》

前立腺生検の患者さんが多く最上位となっています。尿路結石の患者さんも多く、2018年よりレーザーを用いたfTUL（経尿道的尿路結石破碎）を重点的に施行しています。対象はESWL（体外衝撃波結石破碎術）による碎石が困難な尿路結石、サイズの大きな尿路結石に有効な治療です。

■ 産婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用パス
120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腔式子宮全摘術等	86	5.56	5.98	0.00	45.12	
120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術（腔式を含む。） 腹腔鏡によるもの等	79	5.32	6.04	0.00	42.22	
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	56	5.82	8.07	0.00	70.21	

12002xxx01x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮悪性腫瘍手術等 手術・処置等 2 なし	47	9.00	10.48	2.13	59.64	
12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部（腔部）切除術等 手術・処置等 2 なし	38	3.00	3.02	0.00	44.61	

≪定義≫

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

≪解説≫

日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設に認定された西湘地区の基幹中核病院です。救急も含め産科・婦人科全般にわたってあらゆる疾患に対応できる体制を整えています。婦人科疾患では子宮筋腫や、卵巣腫瘍などの良性疾患の治療が多くなっています。悪性腫瘍の治療も多く、病期や患者さんの状態に応じて手術療法、放射線療法、化学療法などを積極的に行っています。産科医療では、新生児特定集中治療室（NICU）を併設し、地域周産期母子医療センター、神奈川県周産期救急医療システム基幹病院として認定されており、神奈川県下全域からの周産期救急を受け入れ、毎年多くの分娩を取り扱っています。

■ 眼科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
020110xx97xx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 片眼	266	3.17	2.63	0.00	76.83	
020210xx99x1xx	網膜血管閉塞症 手術なし 手術・処置等 2 あり	29	2.07	2.14	0.00	77.34	
020200xx99x1xx	黄斑、後極変性 手術なし 手術・処置等 2 あり	27	2.07	2.13	0.00	81.11	
020180xx99x2xx	糖尿病性増殖性網膜症 手術なし 手術・処置等 2 2あり	-	-	2.62	-	-	
020250xx97xxxx	結膜の障害 手術あり	-	-	3.09	-	-	

≪定義≫

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

≪解説≫

白内障が最も多く、当院では手術治療のみを行っています。その他に加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、糖尿病黄斑浮腫、病的近視における脈絡膜新生血管に対する抗VEGF硝子体内注射治療（ルセンティス・アイリーア・ベオピュ等）を積極的に行っています。

■ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
030428xxxxxxxx	突発性難聴	81	7.98	8.56	0.00	58.44	
030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	80	6.75	6.23	1.25	54.91	
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	50	7.64	7.73	0.00	30.94	
030390xx99xxxx	顔面神経障害 手術なし	44	9.20	8.81	0.00	53.70	
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	35	5.66	5.69	0.00	43.29	

≪定義≫

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

≪解説≫

突発性難聴が最上位となっています。適切な早期治療と安静が必要なため入院治療を行います。慢性副鼻腔炎、扁桃の疾患が多く上位となっています。扁桃の疾患は、ほとんどの患者さんで口蓋扁桃摘出術が行われています。また、言語障害においては言語聴覚士とも連携を取り、言語聴覚士による言語リハビリテーションを行っています。

■ 救急科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
--------	-------	-----	--------------------	--------------------	-----	------	-----------

160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	70	5.44	8.54	10.00	49.74
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等 2 なし	63	25.17	21.11	36.51	84.37
161070xxxxx00x	薬物中毒（その他の中毒） 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	48	3.35	3.61	4.17	42.38
110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	42	12.05	13.61	4.76	79.40
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 定義副傷病 なし	41	3.54	10.14	4.88	60.32

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に「病名と治療行為の組み合わせ」で集計し上位5つを表示しています。（出来高症例など、DPCコードのない症例は集計から除外しています。）

《解説》

県西二次医療圏唯一の三次救急医療機関として、救急センターを開設し高度急性期医療を担っています。各専門診療科と連携し、迅速で円滑な診療体制を構築しています。心肺停止や急性冠症候群、急性脳卒中などの救急疾患の対応、多発外傷や急性薬物中毒などの特殊な疾患の入院治療を中心に行っています。転倒転落などによる外傷性の頭蓋・頭蓋内損傷は小児・高齢者に多く最上位となっています。高齢者に多い誤嚥性肺炎、尿路感染症が上位に入っています。

初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数

[ファイルをダウンロード](#)

	初発					再発	病期分類基準（※）	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	22	-	-	33	23	20	1	8
大腸癌	34	26	29	45	-	22	1	8
乳癌	-	-	-	-	-	-	1	8
肺癌	20	-	21	42	50	26	1	8
肝癌	-	12	-	-	-	23	1	8

※ 1：UICC TNM分類，2：癌取り扱い規約

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された5大がん（胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝がん）について、初発患者さんは病期分類別（ステージ別）、再発患者さんは期間内の患者数（延患者数）を集計しています。※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

《解説》

胃がん、大腸がん、肺がんが多くなっています。胃がん、大腸がん、肺がんともに手術、化学療法など集学的治療を行っています。外科手術では腹腔鏡・胸腔鏡手術を積極的にを行い、QOLの向上につながっています。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

[ファイルをダウンロード](#)

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	-	-	-
中等症	73	19.62	75.15
重症	45	21.80	84.07
超重症	18	22.72	83.44
不明	-	-	-

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院へ入院された成人（20歳以上）の肺炎患者さんについて、重症度別に集計し表示しています。（市中肺炎とは普段の生活の中で罹患した肺炎を言います。）

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

《解説》

免疫力の低下している高齢者は重症化になりやすく、在院日数も延びています。

脳梗塞の患者数等

[ファイルをダウンロード](#)

発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
3日以内	134	26.07	76.87	39.04
その他	12	17.67	71.75	2.05

≪定義≫

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された脳梗塞の患者さんを集計し表示しています。

≪解説≫

脳梗塞の多くは高齢者に発症しています。その多くが発症から3日以内に治療が開始されています。急性期の治療後には自宅ではなく、回復期病院などへ転院する患者さんが多く転院率が高くなります。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

[ファイルをダウンロード](#)

■ 腎臓内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K6121	末梢動静脈瘻造設術 内シャント造設術 単純なもの等	45	7.49	11.44	6.67	72.47	
K654	内視鏡的消化管止血術	-	-	-	-	-	
K635-3	連続携帯式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	-	-	-	-	-	
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	-	-	-	-	-	
K653-3	内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	-	-	-	-	-	

≪定義≫

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

≪解説≫

末期腎不全等の血液透析導入に対する、シャント造設術が最上位となっています。次いで、腹膜透析導入に対するカテーテル腹腔内留置術が上位となります。

■ 消化器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	80	2.20	12.06	5.00	79.14	
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）等	44	1.73	2.59	0.00	67.75	
K654	内視鏡的消化管止血術	42	1.81	10.24	9.52	74.67	
K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみ）等	21	1.14	5.29	0.00	72.95	
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍胃粘膜）等	21	1.24	7.10	0.00	75.52	

≪定義≫

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

≪解説≫

大腸ポリープや消化管の早期癌、胆膵悪性腫瘍、消化管出血に対する低侵襲な内視鏡治療の件数が多くなっています。

■ 循環器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	85	2.25	3.33	0.00	73.52	
K5461	経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞に対するもの等	41	0.00	20.66	2.44	69.00	

K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術 心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの	39	3.08	4.51	0.00	66.21	
K5972	ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合 等	36	7.03	12.86	5.56	78.89	
K597-2	ペースメーカー交換術	35	2.69	9.40	0.00	80.29	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

「解説」

狭心症などの虚血性心疾患が多く、冠動脈ステント留置術など内科的カテーテル治療を中心にを行っています。不整脈の患者さんも増加し、経皮的カテーテル心筋焼灼術、ペースメーカー移植術の件数も増加しています。

■小児科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K9131	新生児仮死蘇生術 仮死第1度のもの	15	0.00	14.93	0.00	0.00	
K9132	新生児仮死蘇生術 仮死第2度のもの 等	-	-	-	-	-	
K300	鼓膜切開術	-	-	-	-	-	
K7151	腸重積症整復術 非観血的なもの	-	-	-	-	-	
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 I I I 型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	-	-	-	-	-	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

「解説」

地域周産期母子医療センターの認定施設であり、新生児集中治療室（NICU）を6床併設し、早産児・低出生体重児をはじめ、新生児仮死、呼吸障害、新生児横断などの新生児疾患に対応しています。新生児仮死蘇生術が上位となっています。

■外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	92	3.51	4.36	1.09	64.62	
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	84	2.05	2.43	0.00	69.93	
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	42	6.71	13.43	2.38	74.48	
K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの 等	31	0.81	4.16	0.00	33.77	
K6335	ヘルニア手術 鼠径ヘルニア 等	30	1.93	2.53	0.00	61.97	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

「解説」

疾患と手術件数はほぼ相関します。患者さんの状態に応じて低侵襲な腹腔鏡手術を積極的に行い、QOLの向上につながっています。

■整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿 等	169	4.04	18.76	49.11	78.69	
K0811	人工骨頭挿入術 肩、股 等	108	5.12	22.54	60.19	82.25	
K0821	人工関節置換術 肩、股、膝 等	79	3.44	23.15	6.33	72.82	
K0462	骨折観血的手術 前腕、下腿、手舟状骨 等	73	5.03	14.66	13.70	59.34	
K0463	骨折観血的手術 鎖骨、膝蓋骨、手（舟状骨を除く。）、足、指（手、足）その他 等	34	2.76	3.94	2.94	54.21	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

「解説」

骨折に対する観血的手術が多く、入院疾患と手術件数はほぼ相関します。股・膝関節症などの慢性疾患の手術も多く行っています。

■ 形成外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2191	眼瞼下垂症手術 眼瞼挙筋前転法	20	0.25	3.95	0.00	72.30	
K753	毛嚢嚢、毛嚢瘻、毛嚢洞手術	-	-	-	-	-	
K0871	断端形成術（骨形成を要する）（指）等	-	-	-	-	-	
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 肩、上腕、前腕、大腿、下腿、躯幹	-	-	-	-	-	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径2センチメートル以上4センチメートル未満	-	-	-	-	-	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

「解説」

全身麻酔を要する手術は入院で行います。眼瞼下垂症手術の入院は必須ではありません。

■ 脳神経外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	35	1.94	14.80	20.00	76.14	
K1781	脳血管内手術 1箇所等	12	1.00	28.67	33.33	64.42	
K178-4	経皮的脳血栓回収術	11	0.00	42.64	72.73	76.00	
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの等	10	4.30	18.40	20.00	56.10	
K609-2	経皮的頸動脈ステント留置術	-	-	-	-	-	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

「解説」

開頭手術・血管内カテーテル治療・神経内視鏡のいずれも行える体制を整えており、病気の特徴や患者さんのご希望に合わせて最適な治療法を提案します。手術は原則として最低限の剃毛のみで行い、脳や神経の正常な機能を最大限温存しながら、術後の整容面にもこだわった治療を心がけています。

■ 呼吸器外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）等	12	1.00	5.42	0.00	68.50	
K5131	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））等	-	-	-	-	-	
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）等	-	-	-	-	-	
K5132	胸腔鏡下肺切除術（部分切除）	-	-	-	-	-	
K496-5	経皮的膿胸ドレナージ術	-	-	-	-	-	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

「解説」

肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、嚢胞性肺疾患、気胸、膿胸及び胸部外傷など呼吸器外科領域の診療を行っています。小さな手術創による胸腔鏡下手術を取り入れ、手術侵襲を軽減しQOLの向上につながっています。

■ 皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除 等	18	1.00	1.94	0.00	77.11	
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外） 長径6センチメートル以上12センチメートル未満 等	-	-	-	-	-	
K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外） 長径3センチメートル以上6センチメートル未満	-	-	-	-	-	
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径2センチメートル未満	-	-	-	-	-	
K0871	断端形成術（骨形成を要するもの） 指（手、足）	-	-	-	-	-	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

「解説」

皮膚悪性腫瘍切除術が最も多く、小型であれば外来で手術可能です。大型の場合は入院して全身麻酔で手術を行っています。

■ 泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8036 1	膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 電解質溶液利用のもの	94	1.38	6.51	0.00	74.30	
K783- 2	経尿道的尿管ステント留置術	55	0.91	8.07	9.09	72.69	
K7811	経尿道的尿路結石除去術 レーザーによるもの	53	1.21	3.38	1.89	61.60	
K843- 2	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	27	1.26	9.07	0.00	72.74	
K773- 2	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	16	1.56	8.56	0.00	72.81	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

「解説」

前立腺針生検を除いた入院疾患では膀胱がんや腎・尿路結石が多く、疾患と手術件数は相関します。

■ 産婦人科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K877- 2	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	82	1.01	3.88	1.22	49.06	
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 腹腔鏡によるもの 等	82	0.99	3.59	0.00	42.34	
K865- 2	腹腔鏡下仙骨腔固定術	40	1.03	4.20	0.00	66.90	
K867	子宮頸部（腔部）切除術	39	1.00	1.00	0.00	44.69	
K861	子宮内膜搔爬術	33	1.09	0.15	0.00	50.00	

「定義」

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

ます。

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

《解説》

子宮筋腫や卵巣嚢腫、子宮頸・体部がんに対する手術が多く上位となっています。当科では腹腔鏡・子宮鏡を用いた鏡視下手術を積極的にいきQOLの向上につながっています。

■ 眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821 □	水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 その他のもの	266	1.00	1.17	0.00	76.83	
K224	翼状片手術（弁の移植を要するもの）	-	-	-	-	-	
K234	眼窩内腫瘍摘出術（表在性）	-	-	-	-	-	
K225-2	結膜腫瘍摘出術	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

《解説》

老人性白内障に対する水晶体再建術が最も多く、疾患と手術件数は相関します。2.4mmの極小切開で惹起乱視が少なく回復の早い手術を行い、速やかに日常生活に復帰していただくことを目指しています。

■ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K3772	口蓋扁桃手術 摘出 等	68	1.10	5.87	0.00	28.90	
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 I I I 型（選択的（複数洞）副鼻腔手術） 等	59	0.97	4.90	1.69	53.71	
K3932	喉頭腫瘍摘出術 直達鏡によるもの 等	31	1.00	2.81	0.00	63.13	
K368	扁桃周囲膿瘍切開術	24	0.17	5.42	0.00	37.79	
K340-6	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 I V 型（汎副鼻腔手術）	20	1.00	4.95	0.00	54.20	

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんを診療科毎に手術種類別に集計し上位5つを表示しています。

《解説》

扁桃線疾患と慢性副鼻炎に対する手術が多く、入院疾患と手術件数は相関します。

その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

[ファイルをダウンロード](#)

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	17	0.16
180010	敗血症	同一	68	0.65
		異なる	18	0.17
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	31	0.30
		異なる	-	-

《定義》

2022年4月1日から2023年3月31日までの期間に当院を退院された患者さんのうち、播種性血管内凝固症候群（DIC）、敗血症、

その他の真菌感染症、手術・処置等の合併症について集計しています。

※年間症例数が10件未満の場合は「-」で表示しています。

「入院契機（同一、異なる）」… 入院するきっかけとなった傷病名を「入院の契機となった傷病名」、主に治療した傷病名を「医療資源を最も投入した傷病名」といい、これら二つの傷病名が「同一」か「異なる」かに分けて集計しています。

「同一」ならば、入院するきっかけとなった傷病を主に治療して退院したことになり、「異なる」ならば、入院後に他の傷病が治療の主となったこととなります。

「発生率」… 全退院患者に対する発生割合です（各傷病名の件数に対する割合ではありません）。

«解説»

手術・処置等の合併症の症例は、透析シャント狭窄等が含まれます。

更新履歴

2023/9/29

2022年度 小田原市立病院 病院指標 公開